

絵付け陶芸 開催しました！

自主事業の一環として開催している陶芸。コースには手ひねり、電動ろくろと絵付けがあります。

今回2月3日（土）に実施したのは、絵付け陶芸です。

まず午前部と午後部に分かれてあり、自分の都合に合わせて午前か午後かを選択して応募された人たちが彦根市荒神山自然の家においていただきました。場所は、自然の家にある研修棟の2階で開催しました。陶芸関係で使用しているこじんまりした部屋です。

事前に自然の家の職員が準備したお皿（直径10cm程度の円形のもの）を3枚渡し、そこに専用の絵の具で好みの絵を描いていきます。この絵の具は、水彩画用の絵の具と違い絵の具材の中に釉薬が混ざっており、色も水彩画用に比べるとすこし鮮やかな色に見えます。以前は、酸化コバルトやベンガラなどしかなかったのですが、近年では、絵付け絵の具も進化して色も充実して使いやすいものが増えてきたそうです。使う筆は、面相筆という人や動物の表情（面相）を描くのに使われる穂先が細い筆です。筆のつけ根が2段構造で握りやすいため、筆を思いどおりに動かせ、毛が長くコシのあるものが多いので、髪の毛のような細い線や曲線を描いたり、細かい部分を着色・糊づけしたりするのにも向いている筆です。しかしながら、書く素材が紙とは違うため水彩画を描くようにはなかなかいかずに苦労されているようでしたが、時間が経つうちに筆にもなれて、スムーズに筆が動くようになっていました。また、描いた絵がすぐに素焼きの皿にしみ込んで定着していくのには驚きました。

絵柄は、全くの自由。職員があらかじめいくつかのサンプルや図柄を準備していましたが、絵心がある方が多く思い出のシーンやキャラクター、彦根城などとりどりの作品が完成しました。書き終えた後は、自然乾燥をして絵の具が乾いた後で透明の釉薬をかけて、自然の家にある電気窯で焼き上げます。窯の温度を1230度まで上げおよそ15時間で完成。素地に描いた絵を釉薬でコーティングするので、長年使用していても絵が消えることはありません。完成した作品は、後日連絡をして取りに来ていただくことになります。

自然の家ではさまざまな陶芸作品作りを実施しています。実施は、全部で3種類。そのうち訳は手ひねりろくろを使った作品作り。電動ろくろを使った作品作り。そして今回の絵付け。今年度はすべて終了しましたがぜひ一度、陶芸での作品作りにご参加ください。

皆様のおいでをスタッフ一同お待ちしております。応募や詳細をお聞きになりたい折には、彦根市荒神山自然の家（TEL 0749-28-1871）までお問い合わせください。

活動の様子

